

第1学年 単元別学習内容一覧

◎ 算数への導入（わくわく すたあと）			
小見出し	時	ページ	学習内容
あそびが つながる うれしいな どきどき がっこう	1	0～3	○これから学ぶ算数に対して興味や関心をもつ。【態 度】 ○タンポポや亀など、同じものをぜんぶまとめて囲む。【知・技】
	2	4～5	○鳥と巣箱、蝶と花など、1対1に対応づけて数の多少を調べる。【知・技】
	3	6～7	○ジョウロとバケツなど、具体的なものを数図ブロックに置き換えて数の多少を調べる。【思判表】

1 かずと すうじ（わくわく すたあと）			
目 標			指導時数・時期
○ 10 までの数について、よみ方、かき方、数の系列、大小を理解し、5 までの数の合成・分解の仕方を考える活動や、具体物と数図ブロックを対応させる活動を通して、ものの個数を数で表すよさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。			7 時間 2 学期制：4 月中旬～5 月上旬 3 学期制：4 月中旬～5 月上旬
(知) ・10 までの数の数観念、よみ方、かき方、数系列、大小を理解している。 ・5 までの数の合成・分解ができる。			
(思) ・ものの集まりをとらえ、数を数え、数を表す考え方を身につける。			
(態) ・10 までのものの個数を、数で表すよさを知り、進んで用いようとする。			
小見出し	時	ページ	学習内容
5 までの かず	1	8～9	○教室にある 5 までの数に関心を持って調べる。【態 度】 ○教室のあるものと数図ブロックを対応させて、5 までの数を数えたり、数字をよんだりする。【知・技】
	2	10	○5 までの数の数字をかいたり、順序よく数えたりする。【知・技】
	3	11	○5 までのものの数を数えて、数字で表す。【知・技】 ○おはじきなどを使って、5 までの数の合成・分解をする。【思判表】
10 までの かず	4	12～13	○校庭にある 10 までの数に関心を持って調べる。【態 度】 ○校庭にあるものと数図ブロックを対応させて、10 までの数を数えたり、数字をよんだりする。【知・技】
	5	14～15	○10 までの数の数字をかいたり、順序よく数えたりする。【知・技】 ○身のまわりから 10 までの数のものを見つける。【態 度】
ならべよう	6	16	○10 までの数や数字にあうように、数図ブロックを並べる。【知・技】
いって みよう・くらべよう・かぞえよう	7	17	○10 までの数を唱えたり、大小を比べたり、音が鳴った回数を数えて数字で表したりする。【知・技】

2 なんばんめ			
目 標			指導時数・時期
○ 順序数について、数が順序を表す場合に用いられることを理解し、方向や位置を表すことばでものの順番や位置を表す活動を通して、順序数を用いるよさを感じながら学ぶ態度を養う。			3 時間
(知) ・数が順序を表す場合に用いられることを理解し、「前後」「左右」「上下」などの方向や位置を表すことばを正しく用いて、ものの順番や位置を数で表すことができる。			2 学期制：5 月中旬
(思) ・「前後」「左右」「上下」などの方向や位置を表すことばに着目し、数を用いてもものの順番や位置を表すことを考えることができる。			3 学期制：5 月中旬
(態) ・順番や位置を数で表すことのよさに気づき、進んで順番や位置を数で表そうとする。			
小見出し	時	ページ	学習内容
	1	18～19	○前後、上下、左右に並んだものをみて、順序や位置を表す。【態 度】
	2	20	○「前から何番目」(順序数)と「前から何人」(集合数)との違いを理解する。【知・技】
	3	21	○自ら起点を定めて、ものの位置を表す。【知・技】

3　いくつと　いくつ			
目　　標			指導時数・時期
○　6, 7, 8, 9, 10の数について、数図ブロックを操作しながらそれぞれの数の合成・分解を考える活動を通して、10の補数関係を理解したり、0について知ったりするとともに、親しみながら学ぶ態度を養う。 (知) ・6, 7, 8, 9, 10の合成・分解と、10の補数関係を理解する。 ・0について理解し、「1つもない」ことを0と表現できる。 (思) ・1つの数をほかの数と関係づけて見ることができる。 (態) ・数の合成・分解に興味、関心をもち、進んで合成・分解をしようとする。			7時間
			2学期制：5月中旬～5月下旬
			3学期制：5月中旬～5月下旬
小見出し	時	ページ	学習内容
	1	22～23	○いすとりゲームを通して、6の合成・分解をする。【態　度】
	2	24	○7の合成・分解をする。【知・技】
	3	25	○8の合成・分解をする。【知・技】
	4	26	○9の合成・分解をする。【知・技】
	5	27	○「おはじきいれ」ゲームを通して、いろいろな10の合成・分解をする。【知・技】
	6	28	○10の補数を考えて、10の合成・分解をする。【思判表】
0　と　いう　かず	7	29	○「おはじきいれ」ゲームを通して、0の意味や使い方を理解する。【知・技】

4 いろいろな かたち

目 標				指導時数・時期
○ 立体について、箱や缶を用いて立体を組み立てる活動や、立体の面に着目して写し取った形をいかして絵をかく活動などを通して、ものの形を認めたり、形の特徴を考えたりするとともに、形に親しみながら学ぶ態度を養う。				3 時間 2 学期制：6 月上旬 3 学期制：6 月上旬
(知) ・身のまわりにある立体の観察を通して、形の特徴をとらえたり、なかま分けしたりすることができる。 (思) ・身のまわりのものを、色や大きさ、材質に関係なく、形としてとらえることができる。 (態) ・立体図形の特徴や機能について興味・関心をもち、楽しく作業をしながら基本的な形をとらえようとする。				
小見出し	時	ページ	学習内容	
	1	30～31	○箱や缶の特徴や機能に着目し、動物や乗り物などの形をつくる。【態 度】	
に いてる かたち	2	32～33	○箱や缶、ボールなどを、形の特徴に着目してなかま分けする。【知・技】	
かたちを うつして	3	34～35	○積み木の面を写しとって、面の形の特徴を利用して絵をかく。【思判表】	

* ふくしゅう

小単元	時	ページ	学習内容
	1	36～37	○既習事項の確認と持続

5 ふえたり へったり

目 標				指導時数・時期
○ 変化する数量について、増減を数図ブロックや「ふえた」「へった」ということばで表現することを通して、数の増減の意味を理解し、たし算やひき算の学習の素地を培うとともに、楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。				1 時間 2 学期制：6 月上旬 3 学期制：6 月上旬
(知) ・数量の増減に着目し、「ふえた」「へった」ということばで話をしたり、数図ブロックを操作したりして、増減の意味を理解する。 (思) ・増減の意味を具体的な事象や操作と関連づけて考えることができる。 (態) ・数量が「ふえたり」「へったり」する事象に興味・関心をもち、進んで変化の様子をとらえようとする。				
小見出し	時	ページ	学習内容	
	1	38～39	○「パスごっこ」を通して、数量の増減する場面を体験的に理解する。【態 度】	

6 たしざん(1)

目 標					指導時数・時期
○ たし算について、式のみ方、かき方を知り、数図ブロックや計算カードを用いた活動を通して、(1 位数)+(1 位数)=(10 以下の数)の計算ができるようにするとともに、よさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。					7 時間 2 学期制：6 月中旬～6 月下旬 3 学期制：6 月中旬～6 月下旬
(知) ・たし算が用いられる場面やたし算の記号と式について知り、合併や増加の場면을たし算の式に表し、(1 位数)+(1 位数)=(10 以下の数)の計算をすることができる。 (思) ・合併や増加の場면을、同じたし算と考えることができる。 (態) ・たし算が用いられる場面に興味をもち、たし算の式に表せるよさを知り、進んでたし算を用いようとする。					
小見出し	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
あわせて いくつ	1	40～41	・具体的場面と対応させながら、数図ブロックの操作を繰り返して、たし算のイメージをていねいにつくる。	○3 匹と 2 匹のカエルが集まる場面で、数図ブロックを操作して「合併」の場면을理解する。【知・技】	★ $5+3=8$ などのたし算の式をみて、数図ブロックを操作したり、合併の具体的場面のお話づくりをしたりして、たし算の意味や表現を豊かにする。
	2	42～43	・具体的場面と対応させながら、数図ブロックの操作や式に表すことを繰り返して、たし算の意味や表現を定着させる。	○合併の場面で、 $5+3$ や $2+4$ のたし算の式を知り、たし算の式にかいて答えを求める。【知・技】	
ふえると いくつ	3	44	・具体的場面と対応させながら、数図ブロックの操作を繰り返して、たし算のイメージをていねいにつくる。	○4 匹のカエルに 2 匹加わる場面で、数図ブロックを操作して「増加」の場면을理解する。【知・技】	★ $5+2=7$ などのたし算の式をみて、数図ブロックを操作したり、増加の具体的場面のお話づくりをしたりして、たし算の意味や表現を豊かにする。 ★けいさんのれんしゅう p.168 の問 1 に進む。
	4	45	・具体的場面と対応させながら、数図ブロックの操作や式に表すことを繰り返して、たし算の意味や表現を定着させる。	○増加の場面で、 $5+2$ や $3+6$ のたし算の式にかいて答えを求める。【知・技】	
たしざんの もんだい	5	46	・問題文をよんで、まず、わかっていること、求めることをはっきりさせる。 ・具体的場面から、数図ブロックの操作や式に表すことが確実にできるようにする。	○文章や絵から、合併や増加の場面であることをとらえて、たし算の式に表して答えを求める。【思判表】	★合併・増加の問題をつくって、解きあう。

たしざんの かあど	6 ・ 7	47	・ p.171「かあどげえむ」では、「こたえは いくつ」で十分に習熟をはかる。	○たし算のカードを使って、たし算について習熟する。【態 度】	★p.171「かあどげえむ」の「なかまあつめ」では、答えが2から10までになるたし算の式を自らつくる。
-----------	-------------	----	---	--------------------------------	---

* ふくしゅう				
小単元	時	ページ	学習内容	
	1	48～49	○既習事項の確認と持続	

7 ひきざん(1)					
目 標				指導時数・時期	
○ ひき算について、式のよみ方、かき方を知り、数図ブロックや計算カードを用いた活動を通して、(10以下の数)－(1位数)の計算ができるようにするとともに、よさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。				10 時間 2 学期制：6 月下旬～7 月中旬 3 学期制：6 月下旬～7 月中旬	
(知) ・ひき算の記号や式のよみ方、かき方、計算の仕方を理解し、求残、求部分、求差の場면을数図ブロックで操作し、ひき算の式に表して答えを求めることができる。					
(思) ・求残、求部分、求差の場면을同じひき算と考えることができる。					
(態) ・求残、求部分、求差をひき算の式に表すよさを知り、進んで式に表し、差を求めようとする。					
小見出し	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
のこりは いくつ	1	50～51	・具体的場面对応させながら、数図ブロックの操作を繰り返して、ひき算のイメージをていねいにつくる。	○カエルが5匹いて2匹減る場面で、数図ブロックを操作して「求残」の場면을理解する。【知・技】	
	2	52～53	・具体的場面对応させながら、数図ブロックの操作や式に表すことを繰り返して、ひき算の意味や表現を定着させる。	○求残の場面で、 $8-3$ や $6-2$ のひき算の式を知り、ひき算の式にかいて答えを求める。【知・技】	
	3	54	・具体的場面对応させながら、数図ブロックの操作を繰り返して、ひき算のイメージをていねいにつくる。	○7 頭のコアラのうち 4 頭がオスのとき、メスが何頭かを求める場面で、数図ブロックを操作したり、ひき算の式に表したりして、「求部分」の場면을理解する。【知・技】	★付いさんのれんしゅう p.168 の問2に進む。 ★ $8-3=5$ や $7-4=3$ などのひき算の式をみて、数図ブロックを操作したり、求残や求部分の具体的場面のお話づくりをしたりして、ひき算の意味や表現を豊かにする。
ひきざんの かあど	4 ・ 5	55	・ p.171「かあどげえむ」では、「こたえは いくつ」で十分に習熟をはかる。	○ひき算のカードを使って、ひき算について習熟する。【態 度】	★p.171「かあどげえむ」の「なかまあつめ」では、答えが1から9までになるひき算の式を自らつくる。
ちがいは いくつ	6	56	・具体的場面对応させながら、数図ブロックの操作を繰り返して、ひき算のイメージをていねいにつくる。	○5 匹のカエルと 3 匹のカエルの多少を比べる場面で、数図ブロックを操作して「求差」の場면을理解する。【知・技】	
	7	57	・具体的場面对応させながら、数図ブロックの操作や式に表すことを繰り返して、ひき算の意味や表現を定着させる。	○「どれだけ多いか」を求める場面で、 $6-2$ や $8-3$ のひき算の式にかいて答えを求める。【知・技】	★ $6-2=3$ や $8-3=5$ などのひき算の式をみて、数図ブロックを操作したり、求差の具体的場面のお話づくりをしたりして、ひき算の意味や表現を豊かにする。
	8	58	・具体的場面对応させながら、数図ブロックの図、式に表すことを繰り返して、ひき算の意味や表現を定着させる。	○「ちがいはどれだけか」を求める場面で、どちらが多いかを考えて、ひき算の式にかいて答えを求める。【思判表】	★どちらがどれだけ多いかを、数図ブロックの図や式を使って説明する。
ひきざんの もんだい	9	59	・問題文をよんで、まず、わかっていること、求めることをはっきりさせる。 ・具体的場面から、数図ブロックの操作や式に表すことが確実にできるようにする。	○文章や絵から、求残や求差の場面であることをとらえて、ひき算の式に表して答えを求める。【思判表】	★求残・求差の問題をつくって、解きあう。
おはなしづくり	10	60～61		○たし算やひき算の式を具体的な場面に表すことで、たし算やひき算の式について理解を深める。【思判表】	

8 かずしらべ				
目 標			指導時数・時期	
○ ものの個数について、簡単な絵や図に表したり、よみとったりする活動を通して、身の回りの事柄の特徴をとらえることができるようにするとともに、数量を整理するよさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。			1 時間 2 学期制：7 月中旬 3 学期制：7 月中旬	
(知) ・ものの個数について、簡単な絵や図に表したり、それらをよみとったりできる。 (思) ・ものの個数に着目し、身のまわりの事柄の特徴を捉えることができる。 (態) ・身のまわりの事柄に関心をもち、ものの個数を簡単な絵や図に表すよさに気づき、進んで数量を整理しようとする。				
小見出し	時	ページ	学習内容	
	1	62～63	○ものの数を絵グラフに表し、多少を比較するなどして、事柄の特徴を捉える。【思判表】	

＊ ふくしゅう				
小単元	時	ページ	学習内容	
	1	64～65	○既習事項の確認と持続	

9 10 より おおきい かず				
目 標			指導時数・時期	
○ 20 までの数について、よみ方、かき方、数の系列、大小を理解し、「10 といくつ」という数構成の考え方にもとづいて加減計算をしたり数を表したりするとともに、数に親しみながら学ぶ態度を養う。			8 時間 2 学期制：7 月中旬～9 月上旬 3 学期制：9 月上旬～9 月下旬	
(知) ・20 までの数について、構成、系列や大小関係を理解し、よんだり、かいたりすることができる。 ・数構成にもとづく加減計算ができる。 (思) ・「10 といくつ」という数の考え方ができる。数構成にもとづく加減計算の仕方を考えることができる。 (態) ・「10 といくつ」によって 20 までの数を表すよさを知り、進んで用いようとする。				
小見出し	時	ページ	補充コース	基本コース
	1	66～67	・具体物に数図ブロックを置きながら数えて、数字を対応させて数のよみ方を理解させる。	○うさぎやきのこと、花の数を調べて、11 から 20 までの数の数え方とよみ方を理解する。【知・技】
	2	68	・まず、全体で 20 までの数を繰り返し唱えたり、数図ブロックでつくったりしてから、問 2 や問 3 に取り組ませる。	○11 から 20 までの数を、数字でかいたり、数図ブロックで並べてつくったりする。【知・技】 ○11 から 20 までの数の大小を比較する。【知・技】
	3	69	・問 5 の㊸や㊹では、「2 ずつ」「5 ずつ」の数え方を具体物と対応させながら繰り返し唱える。	○「2 ずつ」「5 ずつ」の数え方を工夫し、それを用いて数える。【思判表】
10 と いくつ	4	70～71	・数字と数図を対応させて、「10 といくつ」という見方を定着させる。	○10 と 5 で 15、16 は 10 と 5 といった「10 といくつ」という見方で、20 までの数をとらえる。【思判表】 ○身のまわりから、20 までの数のものをみつける。【態 度】
かずの ならびかた	5	72～73	・0 から 20 まで数字カード並べたら、まず、それをみて順や逆によむ練習をする。	○0 から 20 までの数字カードを並べる活動を通して、20 までの数の系列や数直線について理解する。【知・技】
たしざんと ひきざん	6	74	・数図ブロックを操作して、「10 といくつ」という見方と、たし算やひき算の仕方とを対応づける。	○10 個の卵と 4 個の卵をあわせる場面で、10+(いくつ)のたし算をする。【知・技】 ○12 枚の折り紙のうちの 2 枚を使った場面で、(十何)－(何)で 10 になるひき算をする。【知・技】
	7	75	・数図ブロックを操作して、「10 といくつ」という見方と、たし算やひき算の仕方とを対応づける。	○「10 といくつ」という見方を働かせて、12+4 や 15－3 のたし算やひき算をする。【思判表】
学びのまとめ	8	76～77	・たしかめようの自己評価に基づき、理解が十分でない内容をふり返らせる。	○学習内容の理解を確認する。 【知・技】 たしかめよう問 1～問 3 【態 度】 ふりかえろう

＊ ふくしゅう				
小単元	時	ページ	学習内容	
	1	78～79	○既習事項の確認と持続	

10 なんじ なんじはん				
目 標			指導時数・時期	
○ 時計や時刻について、長針、短針のさす目盛りに着目して時刻を考えることを通して、何時・何時半をよんだり文字盤で表したりできるようにするとともに、そのよさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。			1 時間	
(知) ・何時・何時半の時刻のよみ方を理解し、時刻をよんだり文字盤で表したりすることができる。			2 学期制：9 月中旬	
(思) ・時計の長針・短針のさす目盛りに着目して、時刻を考えることができる。			3 学期制：9 月下旬	
(態) ・日常生活場面に即して、時計を観察し、長針・短針の目盛りを見て、時刻をよもうとする。				
小見出し	時	ページ	学習内容	
	1	80～81	○1 日の生活場面で、時刻のよみについて、興味と関心をもつ。【態 度】 ○時計のしくみを知り、何時、何時半の時刻をよみ、つくるこ。【知・技】	

11 おおきさくらべ(1)				
目 標			指導時数・時期	
○ ものの長さ・かさについて、直接比較や間接比較を用いて長さやかさを調べる活動を通して、長さ・かさの概念を理解するとともに親しみながら学ぶ態度を養う。			5 時間	
(知) ・長さ・かさの概念を理解し、具体物の長さ・かさの比較ができる。			2 学期制：9 月中旬～9 月下旬	
(思) ・長さ・かさの比較を通して、測定の基礎となる考え方を身につける。			3 学期制：9 月下旬～10 月上旬	
(態) ・長さ・かさのくらべ方に興味をもち、そのよさを知り、進んでいかそうとする。				
小見出し	時	ページ	学習内容	
ながさくらべ	1	82～83	○長さ比べという活動に興味・関心をもち、直接比較で長さを比べる。【態 度】	
	2	84	○テープを使っていろいろなものの長さをはかり、間接比較で長さを比べる。【知・技】	
	3	85	○机の縦と横の長さを比べる活動などを通して、基準量のいくつ分で長さを比べられることを理解し、そのよさに気づく。【思判表】	
かさくらべ	4	86	○一方の容器の水を他方に移したり、別の容器に移したりして、かさ比べをする。【知・技】	
	5	87	○コップを単位として、その何杯分かでかさを比べられることを理解し、そのよさに気づく。【思判表】	

12 3つの かずの けいさん					
目 標			指導時数・時期		
○ 3つの数の計算について、増えたり減ったりする場面を1つの式に表して計算することができるようにするとともに、式に表すよさを感じながら学ぶ態度を養う。			4 時間		
(知) ・3つの数をたしたり、ひいたりする計算の意味を知り、1つの式に表して計算することができる。			2 学期制：9 月下旬～10 月上旬		
(思) ・3つの数をたしたり、ひいたりする計算を1つの式に表して考えることができる。			3 学期制：10 月上旬～10 月中旬		
(態) ・3つの数をたしたり、ひいたりする計算を1つの式に表すことのよさを知り、進んで用いようとする。					
小見出し	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
	1	88～89	・具体的場面と対応させながら、数図ブロックの操作を繰り返して、2回増えるときの式をていねいにつくる。	○3つの数の計算(+, +)の場面を理解し、1つの式にかいて計算する。【知・技】	★5+3+2=10などの式をみて、数図ブロックを操作したり、具体的場面のお話づくりをしたりして、式の見方を豊かにする。 ★けいさんのれんしゅう p.169 の問5の①～③に進む。
	2	90	・具体的場面と対応させながら、数図ブロックの操作を繰り返して、2回減るときの式をていねいにつくる。	○3つの数の計算(-, -)の場面を理解し、1つの式にかいて計算する。【知・技】	★10-3-2=5などの式をみて、数図ブロックを操作したり、具体的場面のお話づくりをしたりして、式の見方を豊かにする。 ★けいさんのれんしゅう p.169 の問5の④～⑥に進む。
	3	91	・具体的場面と対応させながら、数図ブロックの操作を繰り返して、減って増えるときの式をていねいにつくる。	○3つの数の計算(-, +)の場面を理解し、1つの式にかいて計算する。【思判表】	★5-2+4=7などの式をみて、数図ブロックを操作したり、具体的場面のお話づくりをしたりして、式の見方を豊かにする。 ★けいさんのれんしゅう p.169 の問5の⑦～⑨に進む。
	4	92	・具体的場面と対応させながら、数図ブロックの操作を繰り返して、増えて減るときの式をていねいにつくる。	○3つの数の計算(+, -)の場面を理解し、1つの式にかいて計算する。【思判表】	★7+3-8=2などの式をみて、数図ブロックを操作したり、具体的場面のお話づくりをしたりして、式の見方を豊かにする。 ★コラム「4つの かずの けいさん」に取り組む。 ★けいさんのれんしゅう p.169 の問5の⑩～⑫に進む。

* ふくしゅう				
小単元	時	ページ	学習内容	
	1	93	○既習事項の確認と持続	

13 たしざん(2)

目 標					指導時数・時期
○ (1 位数)+(1 位数)について、繰り上がりのある場合の計算の仕方を考えることを通して、計算が確実にできるようにするとともに、よさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。					9 時間
(知) ・繰り上がりのある計算の仕方について理解し、(1 位数)+(1 位数)の繰り上がりのある計算ができる。					2 学期制：10 月中旬～11 月上旬
(思) ・10 の補数に着目して、加数を分解してたす考え方ができる。					3 学期制：10 月中旬～11 月上旬
(態) ・繰り上がりのある計算に興味をもち、「10 の補数」という考えのよさに気づき、進んで計算しようとする。					
小見出し	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
	1	94～95	・数図ブロックを用いて 10 をつくる操作を身につけさせる。	○8+3 のように(1 位数)+(1 位数)で繰り上がりのあるたし算を、数図ブロックを使って計算し、10 をつくればよいことに気づく。【態度】	★計算の仕方を、数図ブロックやことばで説明する。
	2	96～97	・数図ブロックを用いて 10 をつくる操作を繰り返して、繰り上がりのたし算の仕方を身につけさせる。	○7+4 のように(1 位数)+(1 位数)で繰り上がりのあるたし算を、10 の補数を利用して計算する。【思判表】	★繰り上がりのあるたし算のしかたを、数図ブロックとことばを関連づけて説明する。
	3	98	・数図ブロックを用いて、被加数があるといくつで 10 になるかに着目させる。	○9+8 のように被加数が 6 以上のたし算の計算をする。【知・技】	★繰り上がりのあるたし算のしかたを、数の処理とことばを関連づけて説明する。
	4	99	・数図ブロックを用いて、被加数があるといくつで 10 になるかに着目させる。	○4+8 のように被加数が 5 以下のたし算の計算をする。【知・技】	★コラム「4+8 のけいさんのしかた」を紹介し、被加数分解での計算に取り組む。 ★けいさんのれんしゅう p.169 の問 6 に進む。
たしざんの かあど	5～7	100	・p.171「かあどげえむ」では、「こたえは いくつ」で十分に習熟をはかる。	○たし算カードを使って、繰り上がりのあるたし算を練習し、習熟する。【知・技】	★p.171「かあどげえむ」の「なかまあつめ」では、答えが 11 から 18 までになる(1 桁)+(1 桁)の式を自らつくる。
	8	101	・被加数、加数の小さい順にたし算カードを示し、その答えをいわせながら並べていく。	○たし算カードの答えが同じになるものを順序よく並べ、並び方のきまりを調べる。【態度】	★見通しをもって順序よくたし算カードを並べ、きまりを見いだしたり、説明したりする。
学びのまとめ	9	102～103	・たしかめようの自己評価に基づき、理解が十分でない内容をふり返らせる。	○学習内容の確認をする。 【知・技】 たしかめよう 問 1・問 2 【態度】 たしかめよう 問 3 ふりかえろう	★やってみように取り組む。

14 かたちづくり

目 標					指導時数・時期
○ 形づくりについて、色板や棒などを使って様々な形を作る活動を通して、図形を構成する力と観察する力を身に付けるとともに、形に親しみながら学ぶ態度を養う。					5 時間
(知) ・色板や棒などを使っていろいろな形が構成されていることを理解し、いろいろな形をつくることのできる。					2 学期制：11 月上旬～11 月中旬
(思) ・図形を構成したり観察したりするときの基本的な見方・考え方を身につける。					3 学期制：11 月上旬～11 月中旬
(態) ・色板や棒などを使っていろいろな形をつくることに興味・関心をもち、意欲的に取り組もうとする。					
小見出し	時	ページ	学習内容		
	1	104	○色板を使っていろいろな形をつくることに興味・関心をもち、意欲的に図形の構成に取り組む。【態度】		
	2	105	○色板の並べ方を工夫して、影絵の形を構成する。【思判表】		
	3	106	○棒の並べ方を工夫して、いろいろな形を構成する。【知・技】		
	4	107	○点をつないでいろいろな形を構成する。【知・技】		
	5	108	○図形の変化に着目して、色板や棒を動かす。【思判表】		

* ふくしゅう

小単元	時	ページ	学習内容
	1	109	○既習事項の確認と持続


15 ひきざん(2)					
目 標				指導時数・時期	
○ (十何)ー(1位数)について、繰り下がりのある場合の計算の仕方を通して、計算が確実にできるようにするとともに、よさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。				11 時間	
(知) ・繰り下がりのある計算の仕方について理解し、(十何)ー(1位数)で、繰り下がりのある計算ができる。				2 学期制：11 月中旬～12 月上旬	
(思) ・減加法の考え方ができる。				3 学期制：11 月中旬～12 月上旬	
(態) ・繰り下がりのある計算に興味をもち、「10 といくつ」という数の仕組みを用いるよさに気づき、進んで計算しようとする。					
小見出し	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
	1	110～111	・数図ブロックを用いて 10 からとる操作を身につけさせる。	○13ー9 のように(十何)ー(1 位数)で繰り下がりのあるひき算を、数図ブロックを使って計算し、10 からひけばよいことに気づく。【態度】	★計算の仕方を、数図ブロックやことばで説明する。
	2	112～113	・数図ブロックを用いて 10 からとる操作を繰り返して、繰り下がりひき算の仕方を身につけさせる。	○12ー7 のように(十何)ー(1 位数)で繰り下がりのあるひき算を、10 の補数を利用して計算する。【思判表】	★繰り上がりのあるたし算のしかたを、数図ブロックとことばを関連づけて説明する。
	3	114	・数図ブロックを用いて、10 から減数をひくといくつになるかに着目させる。	○15ー9 のように減数が 6 以上(9, 8, 7, 6)のひき算の計算をする。【知・技】	★繰り上がりのあるたし算のしかたを、数の処理とことばを関連づけて説明する。
	4	115	・数図ブロックを用いて、10 から減数をひくといくつになるかに着目させる。	○13ー4 のように減数が 5 以下(5, 4, 3, 2)のひき算の計算をする。【知・技】	★コラム「13ー4 のけいさんのしかた」を紹介し、減々法での計算に取り組む。 ★けいさんのれんしゅう p.169 の問 7 に進む。
ひきざんの かあど	5～7	116	・p.171「かあどげえむ」では、「こたえは いくつ」で十分に習熟をはかる。	○ひき算カードを使って、繰り下がりのあるひき算を練習し、習熟する。【知・技】	★p.171「かあどげえむ」の「なかまあつめ」では、答えが 2 から 9 までの(十何)ー(1 桁)の式を自らつくる。
	8	117	・被減数、減数の小さい順にたし算カードを示し、その答えをいわせながら並べていく。	○ひき算カードの答えが同じになるものを順序よく並べ、並び方のきまりを調べる。【態度】	★見通しをもって順序よくひき算カードを並べ、きまりを見いだしたり、説明したりする。
かずあて げえむ	9	118	・「かずあてげえむ」では、たし算なら加数、ひき算なら減数というように、裏返すところを決めて行う。	○数字や+, -, =のカードを使って、いろいろなかけ算やひき算の式をつくる。【知・技】 ○数字カードのどれかを裏返した式をつくり、その数字が何かをあてる「かずあてげえむ」をする。【思判表】	★「かずあてげえむ」で、裏返された数字が何かをあてるのに、どのように考えたかを説明する。
けいさんの かみしばい	10	119		○たし算やひき算の紙芝居づくりを通して、計算のお話をつくること(作問)に興味や関心をもつ。【態度】	★問 3 では、3 口の計算になる紙芝居づくりに取り組む。
学びのまとめ	11	120～121	・たしかめようの自己評価に基づき、理解が十分でない内容をふり返らせる。	○学習内容の理解を確認する。【知・技】 たしかめよう問 1・問 2 【思判表】 たしかめよう問 3 【態度】 ふりかえろう	★やってみように取り組む。

16 0 の たしざん と ひきざん					
目 標				指導時数・時期	
○ 0 を含むたし算、ひき算について、0 の扱いを考えることを通して、計算の意味を理解し、計算ができるようにするとともに、日常生活にいかしながら学ぶ態度を養う。				2 時間	
(知) ・0 を含むたし算・ひき算の仕方について理解し、計算することができる。				2 学期制：12 月上旬	
(思) ・0 を含む場合もたし算・ひき算を用いることを考えることができる。				3 学期制：12 月上旬	
(態) ・0 のたし算・ひき算を用いる場面に興味・関心をもち、進んで用いようとする。					
小見出し	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
	1	122	・具体的な場面と式とを対応づけて、0 をたすたし算の式の意味をおさえる。	○玉入れの場面で、0 のたし算の式や計算について理解する。【知・技】	★けいさんのれんしゅう p.170 の問 8 の①～⑧に進む。
	2	123	・具体的な場面と式とを対応づけて、0 をひくひき算の式の意味をおさえる。	○ボーリングの場面で、0 のひき算の式や計算について理解する。【知・技】	★けいさんのれんしゅう p.170 の問 8 の⑨～⑯に進む。

17 もの と ひと の かず					
目 標				指導時数・時期	
○ ある数量を他の数量に置き換える問題や順序数に関する問題について、絵や図を用いて考えることを通して、それらの問題を解くことができるようにするとともに、そのよさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。				3 時間 2 学期制：12 月中旬 3 学期制：12 月中旬	
(知) ・ある数量を他の数量に置き換えることの意味を理解することができる。 ・順序数と集合数について理解を深めることができる。 (思) ・絵や図を活用して、ある数量を他の数量に置き換えて考えたり、並んでいる数からその順番を考えたりすることができる。 (態) ・図を使って考えるよさに気づき、進んでいかそうとする。					
小見出し	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
なんばんめ	1	124	・具体的な活動を通して、問題場面をとらえさせる。	○14 枚の乗り物券を 9 人の子どもに配るといった場面、ある数量を他の数量に置き換えて問題を解く。【思判表】	★問 1 の場面で、乗り物券の数と子どもの数を入れかえて、何枚足りないかを考える問題に取り組む。
	2	125	・具体的な活動を通して、問題場面をとらえさせる。	○前に 7 人いて前から何番目かを考えるといった場面、順序数と集合数の問題を解く。【思判表】	★問 2 の場面で、「まえ」を「うしろ」にかえた問題に取り組む。
	3	126	・具体的な活動を通して、問題場面をとらえさせる。	○前から 3 場面、後ろに 9 人いるといった場面、順序数と集合数の問題を解く。【思判表】	★問 3 や問 4 と同じ場面で、いろいろに数を取り換えた問題に取り組む。

活 もの の いち			
小見出し	時	ページ	学習内容
	1	127	○「たからさがし」の活動を通して、平面上の位置の表し方を理解する。

＊ ふくしゅう			
小単元	時	ページ	学習内容
	1	128～129	○既習事項の確認と持続

18 大きい かず					
目 標				指導時数・時期	
○ 100 までの数や 100 を少しこえる数について、ものの個数や順番を正しく数える活動を通して、数の系列を理解し、大小判断をできるようにするとともに、数に親しみながら学ぶ態度を養う。				13 時間 2 学期制：1 月中旬～2 月上旬 3 学期制：1 月中旬～2 月上旬	
(知) ・十進法を理解し、100 までの数や 100 を少しこえる数の表し方や意味がわかる。100 までの数や 100 を少しこえる数について、数字でかいたり数直線上に表したりするとともに、数の大小比較ができる。 (思) ・100 までの数を「10 がいくつと 1 がいくつ」、100 を少しこえる数を「100 といくつ」という見方でとらえることができる。 (態) ・100 までの数を 10 ずつまとめて数えるよさに気づき、身のまわりから進んで 100 までの数字をみつけようとする。					
小見出し	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
かずの かぞえかた	1	130～131	・問 1 では、まず、1, 2, 3, …と 1 本ずつ数えて、20 をこえる数の数え方を確認する。 ・問 3 では、計算棒を使って、「10 のまとまり」をつくって数を数えたり、数をつくったりする練習を繰り返す。	○数え棒の数え方を工夫し、10 のまとまりをつくって数えるよさに気づく。【態 度】 ○20 をこえる数の数え方を理解する。【知・技】	
かずの かきかた	2	132	・問 3 では、十の位の数と一の位の数から、計算棒を使って数をつくる練習をする。	○26 や 30 を数字でかき、十進位取り記数法の仕組みに気づく。【思判表】	
	3	133		○十進位取り記数法に基づいて、2 位数の構成の理解を深める。【知・技】	
100 までの かず	4	134	・問 1 では、100 枚の葉っぱの絵と対応させて 10, 20, 30, …と 10 ずつ数える練習をする。 ・100 枚の葉っぱの絵を使って、見えている部分が何十枚になるように隠したとき、見えている葉っぱの数や隠れている葉っぱの数を答える問題に取り組む。	○100 枚の葉っぱの絵を使って、100 までの数の数え方や表し方に習熟し、100 について理解する。【知・技】 ○計算棒を使って、何十何に何本かたして何十、九十何に何本かたして百をつくる練習をする。【知・技】	

	5	135	・問2では、まず、1から100までの数表をみて、順や逆に唱える練習をする。次に、自身で1から100までの数表をつくらせる。 ・問3では、数表をみて答えられればよいものとする。	○100までの数の数表を完成させ、それを使って数構成や数の系列の理解を深める。【態度】	★100までの数表にあるきまりをみつける。 ★問3のような問題をつくり、解きあう。
	6	136		○おはじきゲームを通して、100までの数の大きさをくらべをする。【思判表】	★2つの数のどちらが大きいかを「十の位」「一の位」という用語を用いて説明する。
	7・8	137		○数字カードや数直線を使って、100までの数の系列や順序を理解する。【知・技】 ○すごろく遊びを通して、100までの数について理解を深める。【態度】	★問8の後に、「2ずつ増える」「5ずつ増える」数の直線をかく。
学さがしてみよう	9	138		○身のまわりで100までの数が使われている場面を調べ、数字を使うよさに気づく。【態度】	
かいもの	10	139		○買い物場面でお金の出し方を考えることを通して、数の合成・分解に習熟し、数の感覚を豊かにする。【思判表】	★1円玉が4枚、5円玉が5枚、10円玉が2枚、50円玉が1枚というように、それぞれの枚数を決めて、何円ならつくれるかを考える問題に取り組む。
100をこえるかず	11	140	・まず、10が10個で100であることを、計算棒を使って確認する。 ・問1では、100といくつという見方を、計算棒、命数法、記数法を対応させながらいねいにおさえる。	○100と13で113、100と20で120、100と6で106というように、100といくつという見方で、100をこえる数の構成について理解する。【思判表】	★計算棒、命数法、記数法の対応を問う問題をつくり、解きあう。
	12	141	・耳で聞いた数を数字でかく練習をする。	○数表や数直線で、100をこえる数の順序について理解する。【知・技】	★問3では、130程度までの数の数表を自分の力でつくる。
学びのまとめ	13	142～143	・たしかめようの自己評価に基づき、理解が十分でない内容をふり返らせる。	○学習内容の理解を確認する。【知・技】たしかめよう問1・問2 【態度】ふりかえろう	★やってみように取り組む。

19 なんじ なんぷん				
目 標			指導時数・時期	
○ 時計や時刻について、長針、短針のさす目盛りに着目して時刻を考えることを通して、何時何分をよんだり文字盤で表したりできるようにするとともに、そのよさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。			2時間 2学期制：2月中旬 3学期制：2月中旬	
(知) ・時計の文字盤の仕組みについて知り、何時何分の時刻のよみ方を理解している。 ・何時何分の時刻をよんだり、文字盤で表したりすることができる。 (思) ・時計の長針・短針のさす目盛りに着目して、時刻を考えることができる。 (態) ・日常生活場面に即して、進んで何時何分をよもうとする。				
小見出し	時	ページ	学習内容	
	1	144～145	○時計のよみに興味をもち、何時何分の時刻をよむ。【態度】	
	2	146	○何時何分の時刻を正しくよんだり、つくったりする。【知・技】	

20 おなじ かずずつ				
目 標			指導時数・時期	
○ 同じ数ずつに分ける場面について、ブロックを使って等分したりまとめて数えたりする活動や、図や式にかいて確かめる活動を通して、乗法や除法の素地を培うとともに、よさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。			1時間 2学期制：2月中旬 3学期制：2月中旬	
(知) ・数図ブロックの操作を通して、乗法や除法の素地となる「同じ数ずつ」の意味を理解する。 ・乗法や除法の素地となるブロック操作ができ、それを図や式にかいて確かめることができる。 (思) ・等分したりまとめて数えたりして、乗法や除法の素地的な見方で数を考えることができる。 (態) ・具体物を等分したりまとめて数えたりし、それを進んで整理し表そうとする。				
小見出し	時	ページ	学習内容	
	1	147	○かけ算やわり算の素地となる「同じ数ずつ」の意味を理解し、数の感覚を豊かにする。【思判表】	

活 たすのかな ひくのかな				
小見出し	時	ページ	学習内容	
	1	148～149	○たし算やひき算の場面に即して、適切にたし算やひき算の演算決定をすることができる。	

＊ ふくしゅう				
小単元	時	ページ	学習内容	

	1	150～151	○既習事項の確認と持続
--	---	---------	-------------

21 100 までの かずの けいさん					
目 標				指導時数・時期	
○ 100 までの数について、数構成に基づくたし算、ひき算の計算の仕方を考えることを通して、計算ができるようにするとともに、そのよさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。				4 時間	
(知) ・数構成にもとづくたし算、ひき算の計算の仕方を理解し、100 までの数のたし算、ひき算ができる。				2 学期制：2 月下旬	
(思) ・数構成にもとづいて、たし算、ひき算の計算の仕方を考えることができる。				3 学期制：2 月下旬	
(態) ・数構成にもとづいて、たし算、ひき算ができるよさを知り、進んで用いようとする。					
小見出し	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
	1	152	・問 1 では、10 ずつ数えて 40 と 30 を計算棒でつくらせて、あわせる操作をさせる。 ・問 3 では、10 ずつ数えて 70 を計算棒でつくらせて、20 を取り去る操作をさせる。	○40+30 や 70－20 といった (何十) ±(何十) の計算を、10 のいくつ分と考えてする。【思判表】	★けいさんのれんしゅう p.170 の問 10 に進む。
	2	153	・計算棒で何十と何をつくらせ、それを操作して計算の仕方を身につけさせる。	○20+6 や 34－4 といった 100 までの数の構成に基づいた計算をする。【態 度】	★けいさんのれんしゅう p.170 の問 9 に進む。
	3	154	・計算棒を操作して、何十といくつになるかに着目させる。	○32+5 のような(何十何)+(何)で繰り上がりのない計算をする。【知・技】	★コラム「25+10 の けいさん」に挑戦する。 ★けいさんのれんしゅう p.170 の問 11 の①～⑫に進む。
	4	155	・計算棒を操作して、何十といくつになるかに着目させる。	○27－4 のような(何十何)－(何)で繰り下がりのない計算をする。【知・技】	★コラム「36－10 の けいさん」に挑戦する。 ★けいさんのれんしゅう p.170 の問 11 の⑬～⑭に進む。

22 おおい ほう すくない ほう					
目 標				指導時数・時期	
○ 求大・求小の場面の問題について、数図ブロックや絵、式などを用いて考えることを通して、それらを理解し問題を解くことができるようにするとともに、そのよさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。				2 時間	
(知) ・求大・求小の意味について理解し、問題を解くことができる。				2 学期制：3 月上旬	
(思) ・数図ブロックや絵、式などを用いて、求大・求小の問題を考えることができる。				3 学期制：3 月上旬	
(態) ・日常生活場面での求大・求小の問題に興味・関心をもち、進んで解こうとする。					
小見出し	時	ページ	補充コース	基本コース	発展コース
	1	156	・わかっていることや求めたいことをはっきりさせて、数図ブロックを操作して考えさせる。	○求大(大きい方を求める)の問題を、数図ブロックを操作したり、式にかいたりして解く。【思判表】	★自分の力で図、絵、式などを用いて解き、考え方を説明する。
	2	157	・わかっていることや求めたいことをはっきりさせて、数図ブロックを操作して考えさせる。	○求小(小さい方を求める)の問題を、数図ブロックを操作したり、式にかいたりして解く。【思判表】	★自分の力で図、絵、式などを用いて解き、考え方を説明する。

23 大きさをくらべ(2)				
目 標			指導時数・時期	
○ 広さについて、広さを直接比べたり、任意単位を用いて比べたりする活動を通して、身のまわりのものの広さを比較し、広さの概念を養うとともに、そのよさや楽しさを感じながら学ぶ態度を養う。			1 時間	
(知)・広さの比べ方や任意単位を用いた測定の仕方を理解し、広さを直接比べたり任意単位を用いて比べたりすることができる。			2 学期制：3 月上旬	
(思)・状況に応じて、比較する方法を考えることができる。			3 学期制：3 月上旬	
(態)・身のまわりにある広さに関心をもち、進んで比べようとする。				
小見出し	時	ページ	学習内容	
	1	158～159	○広さは、重ねたり、ますの数を数えたりすることで比べられることを理解する。【知・技】	

活 かえますか？かえませんか？					
小見出し	時	ページ	学習内容		
	1	160～161	○1 つの品物を 50 円で買えるか買えないかの場面で、50 より大きい、小さいという数の範囲で判断をする。(見 積りもりの素地)		

＊ もう すぐ 2 年生 (1 年のふく習)					
小単元	時	ページ	学習内容		
	1	162～163	○1 年生の学習内容の確認と持続		

	2	164～165	
	3	166～167	

★ けいさんの れんしゅう	
ページ	学習内容
168～170	・1年生で学習した計算の練習

※「けいさんの れんしゅう」は，少人数学習や自学自習など柔軟な扱いができるように時間配当をしていません。
 すべての児童が一律に学習する必要はありません。